

## 第17回 厚木看護専門学校 教育課程編成委員会 議事録

日時：2024年3月14日(木)

16:30～17:20

場所：厚木看護専門学校 会議室

### 1 外部委員出席者（6人）

- (1) 三宅 正敬（厚木医師会 会長）
- (2) 北野 義和（厚木病院協会 副会長）
- (3) 吉村 由紀（神奈川県看護協会 県央支部長）
- (4) 伊藤 玲子（東名厚木病院 副院長兼看護部長）
- (5) 神保 京美（伊勢原協同病院 副院長兼看護部長）
- (6) 山下 喜典（厚木市 市民健康部長）
- (7) 梅澤 広昭（神奈川県立厚木東高等学校 校長）

### 2 厚木看護専門学校教職員出席者（6人）

学校長 武藤和恵【委員長】、副学校長 五十嵐一美【副委員長】、  
看護学科長 島田真由美、総務課長 茂木憲明  
（オブザーバー参加：看護学科総括主査 持木香代、看護学科総括主査 高橋隆子）

### 3 議題等

- (1) 議題
  - ① 2023年度 カリキュラム評価について 資料1
  - ② 2023年度 卒業生の看護師教育の技術に関する到達度評価について  
資料2
- (2) その他
- (3) 配付資料
  - ① 2023年度 カリキュラム評価について 資料1
  - ② 2023年度 卒業生の看護師教育の技術に関する到達度評価について  
資料2
  - ③ 教育課程編成委員会名簿
  - ④ 教育課程編成委員会規程
  - ⑤ 座席表

### 4 内容等

#### 【五十嵐副学校長】

配付資料の確認、外部委員紹介及び、当校教職員紹介を行った。

#### 【武藤学校長あいさつ】

2023年度の授業は、新カリキュラム導入2年目となり、1・2年生は新カリキュラム、3年生は旧カリキュラムで実施している。2024年度からは全ての学年で新カリキュラムとなる、委員の皆様より忌憚ないご意見をいただきたい。

**【持木看護学科総括主査】**

配付資料①に基づき、3の(1)の①「2023年度 カリキュラム評価について」を説明した。配付資料②に基づき、3の(1)の②「2023年度 卒業生の看護師教育の技術に関する到達度評価について」を説明した。

以上の説明ののち、以下の意見交換があった。

**ア 質疑応答（2023年度卒業生の看護師教育の技術に関する到達度評価）**

**【神保委員】**

資料2の考察、「緊急なことが生じた場合にはチームメンバーへの応援要請ができる」が未達成の回答が3割だが、学生に緊急時の要請は実際のイメージがつかず達成回答が難しいのではないかと。

**【持木総括】**

日々の実習の中で、応援要請を行えるよう指導はしている。

**【神保委員】**

卒業後2年目の看護師の状況を知りたい。

**【島田学科長】**

卒後2年目の看護師状況は現在集計中である。

**【伊藤委員】**

当院就職1年目の看護師の技術チェックでは、「ほぼ単独でできる」評価が中心となっていたが、実状を聞いてみると、1年目の看護師は臨地実習に制約があったため、「患者への説明」について配慮が必要だった。1年間かけて先輩看護師と一緒に学び、習得している。

**【島田学科長】**

直接患者と向き合う時間が少なかった年代で、苦勞している。患者さんとの時間が少ない代わりに、患者さんと関わった時の喜びは大きかったと思う。しかしその一方で学内実習での強化が必要と認識した。

**【武藤委員長】**

2023年度卒業生はまだ旧カリキュラムであるが、新カリキュラムで新しい追加科目で報告することはないか

**【島田学科長】**

解剖生理学は当校の教員が看護に結び付けた授業を実施しており、今後、到達度向上の効果はあると思う。1年次から地域に出ていく実習を行うなかで、相手に配慮した言葉遣いをしている。その一方で自分を表現できず、話しかけられない学生もいた。

**【武藤委員長】**

2年生は保育所実習だけでなく、小中学校も実習先に拡大した。学生たちが「歯みがき」や「手洗い」などをテーマとし、子どもたちに保健指導を実施した。自分たちで企画し実行したことは自律した学習につながったと思う。

**【伊藤委員】**

今の卒後1年目看護師は全体的におとなしい印象を持っている。そのためかグループワークはなかなか進まないが、その一方で休憩時間の雑談になるとよく話す。

**【島田学科長】**

小中学校教員の教育実習では、こどもに近づくことができない実習生もいるが、厚看の学生は積極的に子どもに声をかけ、子どもたちの輪に入ろうとする人が多いと褒められている。小中学校の先生方はその頑張りに驚かされていたと思う。

**【梅澤委員】**

コロナ感染症での社会的後遺症が、これから卒業する学生にも出てくると思う。高校でも人との関わりが苦手なのか、雑談は盛り上がるけれど話し合いの場になると静まり返る。一昔前と学生の波形がことなるとでもいうか。これらの世代の人が変わるには5年10年かかると思う。

一昨年高校2年生の修学旅行では、バスの乗り方を小中で学んでいないためか、バスガイドの話を聞かずにUNOを始めてしまい、せっかくの修学旅行なのに…と感じた。

これらのことから、自由登校については気を付けて導入してほしい。必要性を教えてもらえなかったから、自由なのだから登校しないとなる恐れが高い。今の高校生は自分が尊重されないとハラスメントだと訴えてしまう。呼び出しただけでは職員室に来ないため、廊下で捕まえて、その理由を話して納得させなければいけないような状況である。

**【吉村委員】**

入職する看護師は、教えられないからできないのか、大人の発達障害なのか。頭が良ければ看護師国家試験は合格する。しかし理解の方向性がずれていて、現場では一人立ちできず、マンツーマン指導するものの、教える側が疲弊している現実もある。

**【梅澤委員】**

教育に係る機関では、目指す職種を問わず同じ実状ではないかと思う。そしてできないからと自然淘汰する余裕のある社会ではない。この世代の人たちが今後頑張り社会を維持するのか、それともAIが社会の中心になるか。

**【武藤委員長】**

今までも課題のある学生はいたが、その課題の予測が難しいケースは増えている。

**【神保委員】**

根気よく教え続けるしかないのではないか。

**【吉村委員】**

それでは指導側が疲弊してしまう。

**【伊藤委員】**

フルに臨地実習の経験をしていたら果たして卒業できたか？と思う入職者も多い。臨地実習が少ない頃のレベルに下がったと感じている。

**【五十嵐副委員長】**

臨地実習での指導者は優しくなった。ノーと言われた経験のない学生も多い。

**【神保委員】**

当院でも指導の難しい入職者が多くなったと感じている。

**イ 質疑応答（カリキュラム評価）**

**【神保委員】**

新カリキュラムで改定した解剖生理学授業の効果は数値でみることはできるのか。

**【島田学科長】**

資料1のP6の最上行解剖生理学Iをみると、S・A・Bランクが59.8%と昨年度の解剖学のSABランクが55.3%と大きく変わっているわけではない。しかし看護と直接結び付けながら学べるため、理解は深まったという意見は多くあった。

**【五十嵐副委員長】**

解剖生理学を大学の専門教授が教えていたものが、看護学の専任教員に代わりそれでも大きく数字が変わらなかったのは効果が出たと捉えている。授業を参観したところ学生が楽しそうに授業を受けていた。看護の事例をあげて理解を深められた。患者の苦痛を和らげるにはこうするとかの事例とか、自分の目指す看護につながる部分と紐づけされるとモチベーションアップにもつながるようだった。授業中に眠っている学生はいなかった。2018年度と比較するとAランクは倍以上に増え、Cランク以下は半分に減っている。

**【神保委員】**

解剖学は苦手であったところ、興味を持って理解を深められるようになったことは良いことだ。

**【三宅委員】**

今後も単なる暗記でなく、より実践の理解を深めていただき、授業の質の向上に尽力していただきたい。

以上